



よい子に北山



令和6年6月4日 第16号

5月25日(土) 令和6年度 ふれあい運動会

北山コミュニティ(以下「北山コミ」と表記)の皆さんと一緒に「ふれあい運動会」が行われました。前回の反省や課題を考慮して実施した運動会は、北山っコ(児童・北山コミ・PTAの総称)の「運動会への熱い思い」を随所に感じることができる運動会でした。

北山コミの方と本校の担当で打合会を実施し、取組について相談した結果として「児童と北山コミの代表による選手宣誓」「エール交換」「ふれあい種目の新設」など、新たな取組を加えることができました。また、北山コミやPTA委員の皆さんには、準備や片付け、教職員だけでは手が回らない車や人の出入りの管理・誘導、児童の安全管理など、多くの部分で役割を担っていただき、そのおかげで、児童や教職員の負担が軽減されたり、種目に集中して取り組むことができました。また、高学年では、運動会実行委員会や各委員会の委員として、それぞれに課せられた役割において、教職員以外の大人と関わる貴重な経験をすることもできました。この運動会での経験を、地域の一員としての自覚や、今後の他の行事につなげられるよう努めていきたいと思ひます。

最高の運動会! 目指せ優勝 北山っコ



↑【前日準備】



↑【選手宣誓】



↑【メラメラ玉入れ】



↑【息を合わせてチャレンジ!】



↑【ふれあい大玉リレー】



↑【さあ引け! 励声一番!】

6月3日(月) ふれあい運動会・感謝の会

体育委員会主催で行われました。体育委員長から感謝の言葉を伝えると共に、北山コミ会長へ子どもたちからの感謝カードを手渡しました。北山コミからはハンカチの参加賞をいただきました。



きたちゃんインフォメーション



◆臨時ICT朝会「交通安全講話」◆

5月30日に臨時のICT朝会を実施しました。臨時で行ったのは、登下校における交通安全について注意喚起をし、交通事故を予防するためです。保護者や地域の皆様からお知らせをいただいた、登下校時に実際に起きた・起きている「危険な行為」を画像を交えて紹介しながら、自分や仲間の命を自分たちで守ることができるよう、何かいけなかったのか、どうすべきか具体的に話をしました。問題として取り上げたのは、以下の3箇所です。

もしも実際に事故にあってしまうと、本当に大変です。今回のICT朝会をきっかけに、交通ルールやマナーをしっかりと守って、安全な登下校を目指してほしいです。ご家庭においても、交通安全を意識した登下校の仕方についてご確認をお願いいたします。

①北山小学校北交差点

歩車分離式信号機のある交差点ですが、歩行者用信号が青になった瞬間にダッシュで歩道を渡ろうとした児童に向かって、右折車が接触しそうになりました。

②東新町4丁目交差点付近

見通しのよい歩道がある道路で、一人の児童が隣を歩く児童をpushしたため、pushされた児童が車道側に転倒し、危うく車に引かれそうになりました。

③梶田町6丁目交差点（ココカラファイン側）

信号待ちの児童の列が広がって車道側にはみ出し、トラックなどの大型車が至近距離まで近づいてきて危険でした。（心配して声をかけてくださった方に失礼な態度をとった児童がいました。）

◆欠席連絡等における「C4th Home & School」の運用について◆

C4th Home & School（以下「アプリ」と表記）での欠席連絡等にご協力いただき、ありがとうございます。アプリの運用につきまして、改めて確認させていただきます。ご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

○「欠席連絡」は「欠席」「遅刻」の連絡のみに利用し、その他の伝言・連絡や相談等は、連絡帳や電話を利用してください。（アプリにおける「その他」の欄に連絡等を入力・送信されると、児童の出欠席の集計に不具合が生じることがあるからです。）

○慌ただしく複雑な朝の業務を軽減させることをねらったアプリ利用でもあります。基本的にアプリでの「欠席連絡」に対しては、「既読」にすることのみで対応させていただいています。（何らか学校からお知らせする必要がある場合のみ、アプリにより返信させていただくことがあります。）

ケロけるん

「子どもたちの笑顔が私のこ褒美です」と言う精神的なこ褒美ではなく、あくまでも欲を満たしてくれるものとしてのこ褒美がもらえるなら何がよいだろう？▼こんなことに想いを巡らせるのは『自分へのこ褒美』なる言葉を耳にしたから。私だって私なりに色々頑張っている。大きめの仕事をやり終えたら、こ褒美をもらってもよいはずだ▼ただ実際に何をこ褒美にするかは難しい制限がある。だって出資者は自分。お小遣いの範囲となるから結局、いつもより少しだけ価格の高いおやつを買うか、買う数を増やすくらいしか手がない。誰かがこ褒美をくれれば問題は解決するのだが、何せ一番身近な家族でさえ私に関心が無い▼他から褒美を授けてはもらえない自分を納得させられるのは、やっぱり「子どもたちの笑顔が私のご褒美」と思う。私の心を十分満たしてくれる子どもたちの存在に、感謝感謝